

復興元年 福の神



鈴木 忠一 (写真部)

は な や ま

発行
社団法人
宮城県芸術協会

(郵便番号 980-0102)
仙台市青葉区二日町 16-1
二日町東急ビル 5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
編集 小山 喜三郎

年頭にあたり、昨年春に東北を襲った未曾有の大震災で亡くなられた会員の方々のご冥福を祈り、被災された皆様にご心から御見舞いを申し上げます。

震災直後、茫然自失の時が過ぎると、一番先に何をなすべきかを協議し、懸命に取り組んだ。会員の消息把握、義援金等の支援活動、文化施設の損害確認と調査、内外から殺到する支援活動の調整と受け入れ、県や市などの関連諸機関に対する陳情等々に走り回った。定例の総会が遅れながらも開催され、震災復興支援を明確に謳った秋の芸術祭を中心とした活動方針が決定された。一方、困難な状況の中で、会員は意気軒高!! それぞれの分野で逞しく活動を再開した

エポックメイキングの年



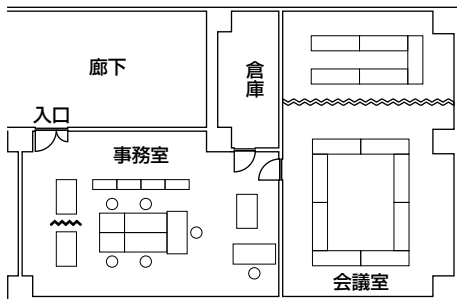
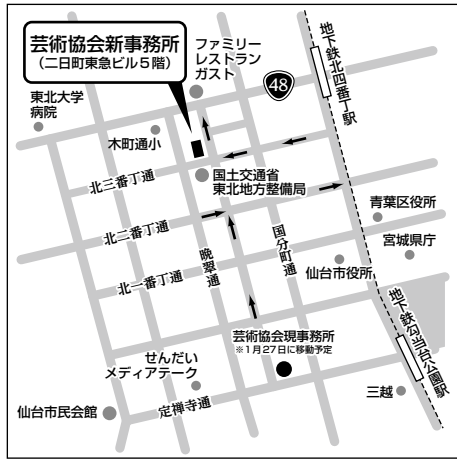
=年頭のあいさつ=

理事長 小山 喜三郎

ことは驚嘆に値する。秋の芸術祭は、文化芸術活動復活の先陣を切って開催し、県民に復興を実感してもらうことが出来、好評を博した。

芸術の秋たけなわの頃、震災で損壊著しい事務所から、常時会議可能な広さを持った条件を求めて、新事務所取得の案が浮上。臨時総会を開いて提案した。昔、シーザーがルビコン川を渡ってローマ進軍を決断した故事を思い出し、一人煩悶していた私は、会員の叡智を集めた議決で無事承認されたことに、感無量であった。

本年は震災の復興、公益法人化の申請、新事務所の有効活用など芸術協にとってエポックメイキングの年となります。ご協力をお願いします。



上：地図 中：室内配置図 下：外観

活動の活性化目指し 二日町に新事務所 ＝ 20年ぶりに移転 ＝

宮城県芸術協会は、一月二十七日、事務所を青葉区国分町の東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）から、新たに取得した二日町東急ビルに移転した。協会の事務所移転は、平成四年に春日町の白鳥ビルから宮城県民会館に移転して以来二十年ぶり。電話やFAX番号は変わらない。

移転計画は、昨年三月十一日の東日本大震災で東京エレクトロンホール宮城が大きく被災し、大規模な補修工事が必要になったことを契機に、公益法人移行準備委員会の議論から持ち上がった。準備委員会と理事会で公益法人化に向けた今後のあり方も考慮して検討が重ねられ、芸術活動

の活性化と事務所の改善を目的に自前の事務所を取得する方針が固まり、十一月十九日の臨時総会を経て実現した。取得に要した経費は千百万円で、当協会が特定資産として保有していた法人運営引当預金と特別事業引当預金の一部が財源に充てられた。

新事務所は県民会館の約六百坪北にある二日町東急ビル五階で、住所は仙台市青葉区二日町一六一、二日町東急ビル5-B。地下鉄北四番丁駅から徒歩約五分の位置にある。面積は百三十四平方メートルで、広さはこれまでの事務所の三倍近い。

事務室の他に最大で五十四人が利用できる会議室を備えている。この会議室は間仕切りが可能で、少人数の会議や研修室、サロンとしても快適に使えるようになっていた。

常時使用できる会議室兼研修室を備えたことにより、理事会をはじめ、各部門の運営委員会や研修会などの会場探しが必要となり、当協会が公益法人として新しいスタートを切る体制が整えられた。

事務所取得と補正予算承認

11月臨時総会を開催

顧問会議で説明

十月十七日、県民会館特別会議室で顧問会議が開催され、小山理事長から事務所取得の目的や経過等が説明された。出席者は以下の通り。

小山喜三郎理事長、高橋通子・早坂貞彦両副理事長、高倉健・星悠丈・日下常由・渡辺雄彦の各顧問。

平成二十三年度臨時総会が、委任状を含む会員一三七五名の出席のもと、十一月十九日、仙台国際センターで開かれた。議題は不動産（事務所）取得とそれに伴う諸案件。

この議題については「はなやま一九〇号」紙上の理事長挨拶で直前に周知されており、当協会の長年の願望のひとつでもあった。

執行部より、公益法人移行準備委員会や理事会で慎重に検討を加えてきた経緯を含め、提案理由が説明された。審議では費用対効果、他の

東日本大震災

復興支援多彩に展開

未曾有の大災害をもたらした東日本大震災の復興支援のため、宮城県芸術協会は昨年五月に河北新報社を通して日本赤十字社に義援金百万円を寄託した。さらに六月の通常総会では、秋の第48回宮城県芸術祭を震災支援事業と位置付け、入場料の一部を各部門が独自に行う支援事業に充てること、支援事業は今

年度だけではなく長期的に取り組むことなどを決議した。こうした方針を踏まえ、書道・彫刻・写真・音楽・文芸の五部門がそれぞれ部門の特性を生かした支援事業を展開し、各方面から感謝されている。各部門が実施した支援事業の概要は次の通り。

音楽部・文芸部も

芸術祭で募金活動

【音楽部】昨年秋季に仙台市青年文化センターで開催した芸術祭音楽会の会場で、震災復興支援の募金活動を行った。寄せられた募金二万三千二百七十五円は昨年十二月、仙台フィルハーモニーが被災者のために行って

いる演奏活動を支援する団体「音楽の力による復興センター」に寄付した。

【文芸部】昨年秋季の芸術祭文芸祭の際、会場の仙台市戦災復興記念館に大震災復興支援の募金箱を設置。来場者に協力を呼びかけたところ、三万円の募金が寄せられ、河北新報社を通じて日本赤十字社に寄託された。

校名板や校歌額など

沿岸部の17校に贈る

【書道部】津波で大きな被害を受けた小・中学校に校名板や校歌額を寄贈する事業を実施した。県教育委員会を通じて照会したところ、気仙沼市から仙台市にかけての沿岸部の十七校から要望があった。

は書道部運営委員十三人がボランティアで当たり、一月中に各学校に届けられた。

女川町に義援金

高村光太郎文学碑の再建を支援

内訳は小学校十三校、中学校四校で、要望は校名板と校歌十一校、校名板三校、校歌二校、沿革史一校。

【彫刻部】昨年五月、仙台市内の画廊で彫刻部会員による東日本大震災復興支援チャリティー展を実施。小品を中心とした作品の売上金の中から、二十五万九千四十五円を義援金として女川町に寄贈した。町では、これを津波で倒された高村光太郎文学碑の再建費用に充てる予定。

校名板は櫨の一枚板に校名を揮毫し、表面を防水加工したものの、校歌と沿革史は額装したものを贈った。いずれも材料費は芸術祭の支援金から支出され、揮毫に

【写真部】昨年秋季の芸術祭の際、せんだいメディアテークと巡回展を行った栗原文化会館の写真展会場でポストカードのチャリティー販売と義援金の募金を行った。ポストカードは写真部会員が自分の作品をもとに作製し、二十枚ずつ持ち寄った。

【写真部】昨年秋季の芸術祭の際、せんだいメディアテークと巡回展を行った栗原文化会館の写真展会場でポストカードのチャリティー販売と義援金の募金を行った。ポストカードは写真部会員が自分の作品をもとに作製し、二十枚ずつ持ち寄った。売上代金と募金の合計二十万六千七百二十一円は、津波で壊滅的な被害を受けた石巻市雄勝硯伝統産業会館の復興支援金として十二月末、雄勝硯生産販売協同組合に寄贈した。会館では平成二十一年十一月に宮城県芸術祭写真展の巡回展を開催しており、写真部との交流があった。

被災者に寄り添う 山形・兵庫の2団体 和紙絵と色紙展

山形市の和紙絵教室の会員二十人が、東日本大震災の被災関係者の癒やしになればと、和紙絵五十点を提供。十二月一日から一月三十一日まで

大類真理代表が山形芸術文化会議に計画を持ち込み、紹介を受けた当芸術協会の橋渡しで開催が実現した。

で仙台市市民活動センター（青葉区）で展示会を開き、終了後は仮設住宅住まいの人などにプレゼントした。和紙絵教室は、山形市民展をはじめ各地の公募展に出展品、で活躍している。今回は

兵庫県洋画団体協議会も、大震災の被災者を癒やし、励ますため、所属二十二団体の画家が百枚の色紙を制作。仙台と気仙沼で展覧会を開催、被災者に作品を贈った。「兵庫から宮城へ 魁れ東北！」と題した色紙展は、一月十七日から十九日まで、仙台中央市民センター（宮城野区）で開かれた。兵庫からは、吉見敏治事務局長ら五氏が仙台を訪問。十八日には会場で交流会を開き、別会場で芸術協会員などと親睦を深めた。

災禍を乗り越えて 第48回芸術祭が閉幕



芸術祭賞の三浦健太郎さんに賞状を手渡す小山理事長(左)

平成二十三年九月二十三日に開幕した第四十八回宮城県芸術祭は、多くの成果をあげて十一月二十四日、ホテルメトロポリタン仙台で閉会式を行った。

各賞の受賞者をはじめ、芸術協会関係者、来賓ら約二百六十人が出席。最初に芸術祭会長の小山喜三郎芸協理事長が挨拶し、「今年私たちは未曾有の災害を体験しました。当協会の中にも犠牲となった会員や家を壊され作品を失った会員がいました。これらの災禍を踏まえ、芸術の力で災害復興の支援をするこ

とをテーマに芸術祭を開催し

たところ、昨年とほぼ同じ入場者があり、県民と共に歩む芸術協会の在り方を再認識致しました」と述べた。

引き続き各受賞者の表彰が行われた。芸術祭受賞者が六十五人のうち、当日式典に参加したのは五十六人で、それぞれに賞状と記念品が贈られた。

また、宮城県芸術協会功績者二十六人の表彰も行われ、小山理事長から表彰状と記念品が授与された。

このあと地域文化功労者文部科学大臣表彰を受けた二人の会員と、知事から文化の日表彰(教育文化功労)を受け

た七人の会員が紹介され、理事長から祝意が表され、記念品が手渡された。

今年度の芸術祭は大震災の影響が懸念されたが、災禍を乗り越えて、展示部門をはじめ長唄演奏会、茶会、県内四会場の巡回展、文芸年鑑発行、文芸祭、文学散歩など予定の事業は例年通り実施された。

反省点も活発に

第二回芸術祭実行委

十二月五日、本年度二回目となる芸術祭実行委員会が仙台市戦災復興記念館で開かれた。各部門の実行委員が集まり、芸術祭の運営について反省と次年度への課題などを話し合った。

功績者26人を表彰

閉会式では華道部十人、音楽部五人、茶道部十一人が功績者として表彰された。

【華道部】(池坊)赤間良香、大里紫草、金森玉翠、佐々木

静月、佐藤華由、佐藤祐峰、

丹野杉翠、星野照波、松島松

祐(龍生派) 平崇月

【音楽部】(洋楽) 庄子みど

各実行委員からは「展示会場の終了時間を午後六時までとしたい」「役割分担を早期に決める」「会員の入場券が死蔵されているのではないか」などの意見が出された。

反省点としては「開会式での作品の解説は良かった」「一般入場者のために体験コーナーを充実したい」「文学散歩に男性会員の参加が少ない。広く一般へのPRが必要」など。

次年度の課題として「各部門とさらに活発なコラボレーションを進めたい」「引き続き震災支援のために何が出来たかを考えたい」などが挙げられ、活発な討議が行われた。

芸術祭巡回展は四地区で

芸術祭巡回展は四地区で次の通り開催された。

◇絵画・書道展大和展…十一月七日～十三日に大和町まほろばホールで。入場者は六百七十七人。

◇絵画・書道展塩竈展…十一月十六日～二十日にふれあいエスプ塩竈で。入場者は五百七十八人。

◇工芸展蔵王展…十月十四日～十九日に蔵王町ふるさと文化会館で。入場者は五百六十人。

◇写真展栗原展…十一月八日～十三日に栗原文化会館で。入場者は二百六十人。

会費等の免除

二百二十三人が申請

当協会は昨年六月の平成二十三年通常総会で、東日本大震災で被災した当協会会員に対して、本人からの申請により平成二十三年会費及び芸術祭負担金を免除することを決めた。申請は昨年十二月末日で締め切られ、免除申請者は全会員の約一割に当たる二百二十三人にのぼった。

第48回宮城県芸術祭受賞者

	部 門	作 品 名	氏 名	
宮城県芸術祭賞	書 道 部	地 蔵 菩 薩 (近代詩文)	宮 崎 礼 子 (仙台市)	
	工 芸 部	流 文 練 上 鉢 (陶 芸)	馬 場 興 彦 (石巻市)	
	絵 画 部 (日 本 画)	静 宴	小 野 寺 君 代 (大崎市)	
	絵 画 部 (洋 画)	来 週 の 浮 遊 者	高 松 和 樹 (仙台市)	
	彫 刻 部	9 つ の 遠 い 稜 線	虎 尾 裕 (川崎町)	
	写 真 部	虚 無	三 浦 健 太 郎 (仙台市)	
	文 芸 部	聖 夜 (俳 句)	屋 代 ひろ子 (仙台市)	
	宮城県知事賞	書 道 部	杜 甫 秋 興 (漢 字)	今 野 桃 生 (石巻市)
		工 芸 部	有線七宝蓋物「バルーン」(七宝)	佐 瀬 たか子 (岩沼市)
		絵 画 部 (日 本 画)	野 分	吉 田 輝 (仙台市)
絵 画 部 (洋 画)		海 景	谷 地 森 真 理 子 (仙台市)	
彫 刻 部		豊 稜 の 女 神	亀 井 陽 逸 (登米市)	
写 真 部		3 . 1 1 被 災	竹 内 邦 昭 (石巻市)	
文 芸 部		虹の轍 死神の涙 (詩)	水 月 りの (仙台市)	
文 芸 部		美 味 し 空 気 を (短 歌)	町 田 龍 子 (仙台市)	
文 芸 部		白 南 風 (俳 句)	井 場 敏 子 (塩竈市)	
文 芸 部		大 震 災 (川 柳)	吉 田 風 川 (石巻市)	
仙 台 市 長 賞	書 道 部	稲 葉 の な び く 秋 風 (かな)	岩 澤 芳 華 (仙台市)	
	絵 画 部 (日 本 画)	一 掬 の 桜	橋 本 道 代 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	R A I D E E N	坂 本 和 之 (大崎市)	
河 北 新 報 社 賞	書 道 部	龍 吟 (少 字)	尾 形 澄 神 (仙台市)	
	工 芸 部	紬 着 物 “ 秋 澄 む ” (染 織)	安 倍 ま ゆ み (仙台市)	
	絵 画 部 (日 本 画)	お 絵 描 き	阿 部 志 宇 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	ワ イ ヤ ー ロ ッ ク	其 田 章 (仙台市)	
	彫 刻 部	思 う 人	板 持 彰 (仙台市)	
	写 真 部	フ ァ ン タ ジ ー	杉 幸 子 (仙台市)	
	文 芸 部	雨 宿 り (川 柳)	藤 本 真 喜 子 (大崎市)	
宮城県教育委員会教育長賞	書 道 部	治 乱 興 亡 (篆 刻)	村 山 柳 雅 (仙台市)	
	工 芸 部	うねり綾織(センター) 芒野(染織)	伊 藤 あ き (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	遙 か (Ⅱ)	小 野 由 貴 子 (仙台市)	
宮城県教育委員会教育長新人賞	書 道 部	岑 參 詩 三 首 (漢 字)	佐 藤 象 雲 (仙台市)	
	書 道 部	かくれんぼ 田中伸子詩(近代詩文)	加 藤 紫 翠 (仙台市)	
	工 芸 部	色絵金彩白蝶草文組鉢(陶 芸)	伊 藤 仁 美 (仙台市)	
	絵 画 部 (日 本 画)	風 韻	富 樫 清 子 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	仮の群像 (消えた日・2011.3.11)	安 達 秀 子 (仙台市)	
仙台市教育委員会教育長賞	書 道 部	わ た し の 心 (墨 象)	千 葉 華 紅 (大崎市)	
	絵 画 部 (洋 画)	u n - t i t l e d	本 田 崇 (大河原町)	
宮城県議会議長賞	書 道 部	汪 廣 洋 詩 三 首 (江 上 一 ・ 二 ・ 三) (漢 字)	池 田 小 沙 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	消えゆく遺産 (秋田黒川油田)	松 永 弘 (大和町)	
仙 台 市 議 会 議 長 賞	書 道 部	怒 涛 (少 字)	島 津 和 子 (岩沼市)	
	絵 画 部 (洋 画)	明 日 へ	菅 原 典 子 (仙台市)	
財団法人宮城県文化振興財団賞	書 道 部	寄 杜 子 二 首 (漢 字)	永 澤 翠 雪 (多賀城市)	
	書 道 部	柳 宗 元 詩 (漢 字)	泉 承 山 (仙台市)	
	書 道 部	大 空 (墨 象)	後 藤 法 明 (栗原市)	
	工 芸 部	仙台ガラス亀甲文有蓋壺(ガラス)	村 山 耕 二 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	バ ア ち ゃ ん の 海	久 保 田 敏 (仙台市)	
	写 真 部	街角にサックスは流れて	中 村 輝 一 (仙台市)	
	文 芸 部	鈴の鳴るやうに(短 歌)	平 野 由 美 子 (仙台市)	
	絵 画 部 (日 本 画)	錦 に 染 め て	新 藤 圭 一 (仙台市)	
財団法人カメイ社会教育振興財団賞	絵 画 部 (洋 画)	風の記憶 -私私であるために-	数 本 奈 智 子 (仙台市)	
	彫 刻 部	春 を 待 つ	赤 井 靖 武 (塩竈市)	
菅野美術館賞	書 道 部	時 (墨 象)	千 葉 四 帆 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	地 下 世 界	岩 澤 誠 一 (大河原町)	
宮城県芸術祭奨励賞	書 道 部	勤 能 補 拙 (篆 刻)	岩 渕 拙 廬 (仙台市)	
	書 道 部	草 野 心 平 の 詩 (近代詩文)	横 田 汀 華 (気仙沼市)	
	書 道 部	柳 澤 桂 子 の う た (近代詩文)	末 永 香 雅 (多賀城市)	
	書 道 部	白 樂 天 詩 (漢 字)	板 橋 翠 苑 (仙台市)	
	書 道 部	宗 左 近 の 詩 「 原 初 」 (近代詩文)	熊 谷 宗 苑 (気仙沼市)	
	工 芸 部	白 の 記 憶 2011 (陶 芸)	浅 井 裕 子 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	行 方	伊 藤 宏 子 (仙台市)	
	絵 画 部 (洋 画)	玩 具	谷 本 優 子 (松島町)	
	絵 画 部 (洋 画)	ジ キ ニ ヤ ム ア メ	玉 川 浩 嗣 (気仙沼市)	
	写 真 部	御 崎 遠 望	昆 野 三 津 男 (気仙沼市)	
	写 真 部	生 と 死 の 幻 想	谷 内 信 行 (仙台市)	
	文 芸 部	もろさやさしさたくましさ(川 柳)	仁 多 見 千 絵 (仙台市)	

日下顧問、高橋参事が受賞

地域文化功労者文科大臣表彰

平成二十三年度の地域文化功労者文科大臣表彰で、当協会からは絵画部（洋画）の日下常由顧問と書道部の高橋孤舟参事の二氏が受賞した。表彰式は十一月十七日、東京・霞が関の文部科学省で行われた。

日下氏は「永年にわたり洋画家として優れた作品を発表するとともに、社団法人宮城県芸術協会等の要職にあつて

文化の日表彰七氏が受賞

本年度の文化の日表彰の教育文化功労に本協会から次の七氏が選ばれた。表彰式は十一月十七日、青葉区の仙台国際センターで行われ、受賞者には村井嘉浩知事から表彰状と記念品が授与された。

原秀一（絵画部洋画） 田村政晴（書道部） 佐々木静月（華道部池坊） 渡部勝彦（音楽部洋楽） 戸部喜久恵（音楽部邦楽） 若林守有（茶道部武者小路千家） 高橋吉勝（写真部）。

地域の芸術文化の発展に貢献している」として表彰された。

高橋氏は「永年にわたり書家として優れた作品を発表するとともに、社団法人宮城県芸術協会等の要職にあつて、地域の芸術文化の発展に貢献している」として表彰された。

大震災に寄せた作品も

芸術祭芸芸祭

本年度芸術祭の一環として十一月二十日、仙台戦災復興

東北経済倶楽部が 芸協に七一〇万円寄付

当協会は十一月二十九日、社団法人東北経済倶楽部から、同法人の自主解散に伴う残余金七百十万三千二百八十三円を寄付された。

贈呈式は河北新報社であり、東北経済倶楽部の会長であった一力雅彦河北新報社社長から、小山喜三郎理事長に目録が手渡された。

東北経済倶楽部は、終戦直

記念館において芸芸祭が開催された。発表されたのは文芸受賞作品の朗読と、大震災に寄せた実行委員の作品。熱演が続き、用意された会場が満席のなか盛況に終わった。

文芸年鑑第42巻発行

第四十二巻となる「宮城県文芸年鑑」が十月十五日に発行となった。A5版三〇六頁で、発行部数は九百五十部。文芸部会全員に配布されたほか、県内の主な図書館などにも寄贈された。残部は一般販売分として事務局および丸善アエル店・金港堂（いずれも仙台）で取り扱っている。

を含む三団体に寄付したい旨の申し入れがあった。

故宮地房江顧問の 遺族からは20万円

遺族からは20万円

平成二十二年十月五日に死去した、芸協顧問で染色家の宮地房江氏の遺族から、二十万円が当協会に寄贈された。昨年八月、ご息女で芸協工芸部運営委員の山崎泰子さんが「芸協の発展のために役立ててください」と事務局に

持参した。

使途は現在検討中であるが、ご遺族の意思を尊重し、工芸部門に「宮地房江賞」を設けることになる見通し。

研修旅行は中止

本年度事業として十月三十一日から五泊六日の日程で計画されていた、タイの三古都とミャンマーへの研修旅行は、タイの大洪水の影響により中止となった。

大邱から訪問団来仙

市民との芸術交流をテーマにセミナーも

昨年十二月八日、当協会と芸術交流を続けている大邱芸術文化団体連合会の文武鶴会長ほか九人が来仙した。これは、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県を訪問して励ますとともに、「市民との芸術交流を深める方策」についてのセミナーを開催したい、とする大邱側の自主的な意思によるもので、一行は名取市開上で津波被害の惨状を視察し、犠牲者に哀悼の意を表した。

交流セミナーは宿泊した松島大観荘で開かれ、芸協から

は小山理事長以下常任理事全員が出席。文会長が大邱側、早坂副理事長が仙台側を代表して基調発表を行った。

セミナーに先立ち、大邱側と来年度の交流事業について協議を行い、①大震災のため今年度実施できなかった交流事業は、平成二十四年六月十二〜十七日に宮城県美術館で開催②交流分野については大邱側の要望で書道・工芸部門に写真部門を加える③図録の印刷は経費節減のため大邱で行う、などを確認した。

「継続する力」テーマに

カメイ美術館と共催作品展

絵画部

本協会とカメイ美術館の共

催による作品展が、今年も一月三十一日から三月十一日までカメイ美術館（青葉区五橋一―一―二三、カメイ五橋ビル七階）で開催されている。

今年のテーマは宮城県芸術協会絵画部門現審査委員作品

に見る『継承する力』。

今回は、現在芸術祭絵画展の審査員を務める八十八人の会員のうち、昭和三十九年の創立以来、絵画部門のために尽力し、部門の基礎を築き、屋台骨となって活躍してきた方々が中心となる。大正十年

一九七三年、私は恩師の奨めで、イタリアにマンドリンの勉強に赴いた。諸般の事情によりシベリア鉄道を利用したので、目的地イタリアまで数カ国を経由。その国々の関係者と出会って交流が芽生え、特にイタリアとの交流は

深まり、貴い財産となっている。言うまでもなくイタリアは芸術文化の歴史が深く、これまで数多くの天才芸術家を輩出して、世界の芸術文化に多大なる影響を与えてきているのは周知のことである。今日、あらゆる分野で日本のレヴェル向上と実績があるが、イタリア人の豊かな感性、表現などに接することに、刺

から昭和十一年までの期間に生まれた世代から、二十七人の自薦作品が展示される。

今年も岩沼市で開催

ミュージックフェスタ

みやぎミュージックフェスタ 2011 in いわぬま『絆』が、三月十七日（土）に岩沼市民会館大ホールで開催される。三部構成で、演奏時間は約二時間。第一部は岩沼市で

活動する合唱団と演奏家による合唱やフルートの演奏及び岩沼北中学校吹奏楽部の演奏。

第二部は芸術協会音楽部会

員による演奏で、沢田啓子さんのグラランドハープ独奏、三野宮まさみさんのソプラノ独唱、山田みづほさんのフルート独奏。第三部は合唱とソリストたちとのコラボレーションが予定されている。

ピアノコンクール

本選は3月20日

第三十二回音楽コンクール

〈ピアノ部門〉は、今年も予選が二月十九日に仙台市戦災復興記念館とカワイミュージックショップ仙台の二会場で行われ、本選は三月二十日仙台市戦災復興記念館で実施される。宮城県在住の小・中学生が対象で、初級、中級、上級に分かれ、予選、本選を経て、級ごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞、作曲者賞などが贈られる。申し込みは一月十二日に締め切られ、参加者は百十八人となった。

宮城の気鋭展終わる

第48回宮城県芸術祭絵画展の受賞者及び賞候補となった会員の作品展「宮城の気鋭展」が、一月十一日から十九日まで仙台市青葉区大町のLBギャラリーで開かれた。

本展は今年で四回目の開催となり、会場には気鋭の名にふさわしく、第一線で活躍する会員の力作二十七点が展示された。来場者は八百十三人で、昨年を大きく上回った。

新春随想

イタリアへの演奏旅行

熱烈歓迎に感動

高橋五郎（音楽部Ⅱ洋楽）

激を受けて学ぶところが多い。異文化との交流の重要性を強く実感した。

二〇〇四年、私達はマンドリンの本場イタリアの合奏団を招き交流演奏会を仙台で開催

催した。歴史上日本で初めての

の実現で、日本中の話題となった。それから毎年のようにイタリアから合奏団、ソリスト、声楽家を招いて共演し、交流は一層深まったのである。

昨年九月中旬、私はイタリアの三都市から招聘を受け、五十名のメンバーと共に演奏旅行を行ってきた。これまでの交流がきっかけとなり、二〇一〇年十二月にブレッシ

ア市長から仙台市長宛の招待状が届き、フェルラーラ、チェルヴィアと続いた。

直後、三月十一日の大震災。一時、音楽どころではない風潮であったが、無事だった人

も得ており、それは印刷物にも記された。現地の方々からは本企画に理解を示してくれ、海外交流の在り方、方向性を考えている。

事務局 日誌

会務報告

11・19臨時総会

○不動産(事務所)取得の承認について

○資産の項目変更について

○平成23年度補正予算について

○定款の一部変更について

後援

☆ぐるーぷ「無」展

12月8日～13日

大崎市民ギャラリー「緒絶の館」

☆クリスマスいけばなin仙台

12月15日

せんだいメデアアテーク

☆中村舜水個展

12月17日～19日

上海師範大学美術学院「無形画廊」

☆東北書道秀技展

1月6日～11日

せんだいメデアアテーク

☆新春の華 内山瑤草書展

1月6日～11日

せんだいメデアアテーク

☆第44回(社)創元会宮城県支部展

1月6日～11日

せんだいメデアアテーク

☆第3回Stella-musica企画

新春レクチュアコンサート2012

1月16日

仙台市戦災復興記念館

☆宮城から兵庫へ甦れ東北!兵庫

県洋画団体協議会色紙絵展

1月17日～19日

仙台中央市民センター

☆宮城一先会展

1月27日～30日

せんだいメデアアテーク

☆仙台オペラ協会第36回公演

「愛の妙薬」

1月28日・29日

仙台市青年文化センター

☆第48回宮城県芸術祭参加行事

「第42回洋舞合同公演」

1月29日

電力ホール

☆第7回Dance Competition in Sendai 2012

2月4日～5日

仙台市青年文化センター

☆あれから一年「みんな一書」書

初書道展～親から子へ、子から

親へ、そして友へ 宮城の想い

以心伝心

2月9日～15日

銀座ギャラリー

☆第24回いづみ絵画協会展

2月28日～3月5日

イズミテイ21

☆第71回春のいけばな展

3月17日～20日

せんだいメデアアテーク

☆小野裕美ピアノリサイタル

3月18日

エルパーク仙台

☆第7回伸の会染色展

3月30日～4月4日

せんだいメデアアテーク

☆第7回ALL NIPPON D.A.T.E

クラシックバレエコンペティションMIYAGI

4月2日～4日

仙台市青年文化センター

☆光の展覧会仙台2012

「アートからのメッセージ」

4月10日～15日

宮城県美術館

☆新藤典子・新藤みどりジョイントコンサート

4月25日

日本キリスト教団仙台青葉荘教会

☆第75回河北美術展

4月28日～5月8日

藤崎本館

※「訂正」

前号(190号)掲載の後援行事「伊藤松鶴書作展」の名称に誤りがありました。正しくは「伊藤泉鶴書作展」です。お詫びして訂正いたします。

会員の入賞・入選など

◇第79回独立展

〈洋画〉▽新人賞 星健悦▽佳作賞 高松和樹▽入選 谷地森真理

子、町田美野、帆莉清治、数本奈

智子、安達秀子、山形牧子、兵藤

洋子、兵藤由紀子、菊地義彦、本

田崇、日黒喜三郎、大阪祥春、三

浦一博

◇第43回日展

〈日本画〉▽特選 佐藤朱希(洋画)▽入選 佐藤幸子、原秀一、

飯淵健一、佐藤みえ子、阿部邦利、

志賀一男(工芸美術)▽入選 小

川和子、平澤富子、川北京子

◇第20回河北工芸展

▽岩手県知事賞 陶芸小川和子

▽仙台市教育委員会賞 陶芸 樋田隆▽宮城県芸術協会賞(七

宝)川北京子

◇第64回塩釜市美術展

〈日本画〉▽塩釜市美術展賞 川尚子

◇第23回しんわ美術展(岡山)

〈洋画〉▽奨励賞 岩澤誠一

◇市政功労者表彰

〈文芸〉▽教育・文化功労 尾花

仙朔、前原正治

◇3・11大震災復興支援企画あり

がとうの詩

〈茶道部〉▽優秀作品 朝比奈南

樹(キヨ子)

受贈書

木田比呂朗句集「こけし」(川柳

宮城野社)宮城の現代詩2011(宮

城県詩人会)伊藤泉鶴書作展作品

集(伊藤泉鶴)被災地に贈る希望

へのメッセージ和顔愛語(尾形澄

神)自註現代俳句シリーズ・11期

52長棟光山子集(長棟光山子)

謹 申

書道部

文芸部(俳句)

茶道部(清泉幽茗流)

芳賀明水殿

9月12日

佐藤永月殿

9月25日

藤本純清殿

11月21日

けやきの譜

遅まきながら、本年もよろしくお願いいたします。

2011年を表す漢字は「絆」であった。あの大震災以後、家族や近所、友人らとの絆を再認識し、大切なものを失いながらも、みな前を向いてきた。ボランティアの若者たちの汗は、大きな励ましを与えた。こうした動きを「明」とすれば、政治のそれは何と形容すればいいのだろう。民主党政権のマニフェストが雲散霧消の状態の中で、大震災からの復興は遅々として進まない。その陰で、フクシマ県民の7・8割に当たる15万7千人が避難先で越年末、強いられた。政府は昨年末、福島原発の事故収束工程表ステップ2の完了を宣言。原子炉は冷温停止状態に達した、としたが、専門家からは疑問の声も多い。廃炉までは40年かかることされ、あらためて支払うべき代償の大きさを知らされた。被災者とうとう向き合いか、それを問われる一年になりそうだ。(恂)